

第1回

宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録（概要）

日 時：平成27年8月3日（月）午後2時～
場 所：宇城市役所2階庁議室

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 委嘱状交付
- 4 副市長挨拶
- 5 会議運営要綱の説明
- 6 会長及び副会長選任
- 7 議事
 - （1）地方創生（まち・ひと・しごと創生）について ～ビデオ視聴～
 - （2）宇城市の地方創生の取り組みについて
 - ・推進体制
 - ・地方創生に関する交付金の活用
 - （3）宇城市の人口動向分析及び会議の役割について
 - （4）今後のスケジュール
 - （5）質疑応答・意見交換
- 8 その他
- 9 閉会

【次回会議】平成27年9月4日（金）午後2：00～

1 開会 （事務局）

2 委員紹介（50音順、敬称略）

3 委嘱状交付（副市長）

4 副市長挨拶

第1回の宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議にご出席をいただきありがとうございます。

本来ならば、守田市長がここに来てご挨拶をすべきところですが、公務が重なり出席できません。ご了承いただきたいと思います。

まち・ひと・しごと創生の趣旨は、本来、将来の人口減少による消費、経済の低下を防ぎ、活力ある日本社会を維持することにあります。

国としても様々な事業を展開しているところではありますが、昨年末、国では「まち・ひと・しごと創生」がもたらす将来の日本の姿を示した長期ビジョンを掲げ、これを具現化するための総合戦略を示したところでございます。それをうけまして、地方自治体も人口ビジョンと独自の総合戦略を策定するよう努力義務が規定されたところであります。

既に多くの自治体が人口減少に直面しており、本市も独自の試算では10年後の平成37年には現在より約6,600人減少し55,000人になると推計しております。

このような状況を踏まえ、昨年11月に「宇城市地方創生・地域再生対策会議」を、また、本年1月には若手職員による作業部会を立上げ、宇城市の強み、特性などを活かした総合戦略の策定に向けてさまざまな検討を行っているところでございます。

しかしながら、この「総合戦略」の策定にあたっては、行政の考えだけで決定するのではなく、さまざまな分野でご活躍の方々の見識や本市で生活しておられる、また、働いておられるという生活者の視点に基づいたお考えも頂戴したいと思います。

これからの有識者会議で提案いただく方針、方向性について、委員の皆様の忌憚のないご意見、議論をご期待しているところです。

5 会議運営要綱の説明

（事務局）

・会議設置の趣旨としては人口ビジョンと総合戦略の策定及び推進の実効性を高める為、住民をはじめ産業界、行政機関、教育機関、金融機関、労働団体などを交えた推進組織により審議、検討することにより広く関係者において意見を反映させていくことを目的として設置している。

・有識者会議の役割については、本市の人口ビジョン及び総合戦略の策定に関することと総合戦略の成果、検証を行うということがある。

・会議は、委員数20人以内で構成する。また、委員の任期については2年以内とし、再任を妨げない。会長、副会長は委員の互選により定める。また会長が会議の議長となることを定めている。

- ・審議、協議を進めていく中で修正が必要であれば、適宜修正し進めていきたい。

6 会長及び副会長選任

※会 長：熊本県立大学 井田 貴志 氏

※副会長：宇城市観光物産協会 塚本 清 氏

7 議事

(1) 地方創生（まち・ひと・しごと創生）について

(事務局)

- ・地方創生について、まず国の長期ビジョン及び総合戦略に関する考え方を理解していただく必要があるので、国が作成したビデオをご覧ください。

～ビデオ視聴約10分間～

・「まち・ひと・しごと創生」については、国と地方が一体となり中長期的に取り組んでいく必要があるということから本市においても地域の特性を活かした「まち・ひと・しごと創生」を積極的に推進するため人口ビジョン及び総合戦略を策定するものである。人口ビジョンは本市の人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すもので、総合戦略の策定にあたり効果的な施策を企画・立案する上で重要な基礎となる。

・総合戦略は人口ビジョンを踏まえ平成27年度を初年度とする戦略の基本的な方向、具体的な施策を体系的に示すものであり、その策定に当たっては国の総合戦略を勘案するものとする。

(2) 宇城市の地方創生の取り組みについて

(事務局)

推進体制

・宇城市総合戦略及び人口ビジョンの策定、推進に関しては市長を会長とする「宇城市地方創生・地域再生対策会議」において決定する。また、総合戦略の素案の検討を庁内組織である「検討部会」及び「作業部会」それから外部組織である、この「有識者会議」や市民の皆様を含めて検討する。

・具体的には「作業部会」が様々なデータの収集から市の現状を分析し、目指すべき方向性を提案し、この「有識者会議」や「検討部会」において意見、提言をいただきながら素案を作成してまいりたい。

・素案については、市議会の意見などを踏まえ対策会議で最終的に決定し策定するという流れになる。

地方創生に関する交付金の活用

・交付金の活用について、地域消費喚起型・生活支援型の交付金としてプレミアム商品券発行事業を行っている。これは「一般向け・未就学世帯向け・多子世帯向け・低所得者向け」の4種類である。販売及び使用開始は8月5日となっている。

- ・地方創生先行型の交付金については、総合戦略に位置付けられる見込みのものを戦略策定に先行して実施する事業であり、宇城市では観光・子育て支援等の事業に取り組んでいる。
- ・来年3月または4月に有識者会議を開催し、これらの事業の取り組んだ成果等を検証し、改善等のご助言をお願いしたい。

(3) 宇城市の人口動向分析及び会議の役割について (事務局)

- ・宇城市が2060年迄にどのようなようになっていくか、どのような問題が発生してくるかという問題意識の共有を図らせていただきたい。
- ・1955年の段階で、75,000人いた宇城市の人口が、2010年の国勢調査段階で61,878人。現役世代と言われる生産年齢の人口の減少が始まっている。そして少子高齢化が進展してきているのが現在の宇城市の人口の推移である。
- ・問題はその後、人口がどのように推移をしていくか、この時に宇城市で何が起こって、その対策として何をしなければならないか。これが政府の言う地方創生という言葉であり宇城市のこの有識者会議の中で、皆様に協議いただくテーマの部分である。
- ・現在の宇城市の人口61,878人の内、年少人口の8,300人が2060年には4,000人になると見込まれている。子供の2人に1人がいなくなり学校の生徒数が2分の1になるという時代。現役世代では55%の減少が見込まれている。逆に65歳以上の老年人口が19%減少になるが、高齢者を支える現役世代の比率は、2:1だったものが1.2~1:1という人口比になってくる。これが2060年の宇城市の人口予測。
- ・総合戦略では人口ビジョンで人口減少が突きつける未来というものを防ぐべく、宇城市が取り組む戦略を策定する。これを行政だけでなく、産業界、農業、教育機関、金融機関、労働団体、また地域の代表の方々みんなで取り組もうというのが、この有識者会議の役割である。
- ・2060年迄で1番大きいのは若年層流出。一方で、1番若い世代(0歳~9歳位迄)は、転入超過。子育て家庭が転入している一方で、若い世代が流出をしているというのが宇城市の人口減少の根本的な部分。
- ・もう1つは未婚率が上昇しており、現在では44歳以下の年齢で約5人に1人は未婚である。39歳以下の非正規労働者の約半分が未婚。39歳以下の女性の正規職員の3分の1も未婚、というのが自然動態・子供を産む数でみる人口減少である。
- ・国が提供したリーサス进行分析すると、宇城市の産業は市内でお金を稼いで、市外から仕入れているという構成でほとんどの産業が成り立っている。
- ・三角西港が世界遺産になり観光客が増えているが、そこから雇用にどれだけつなぐ事ができるのか。雇用が生まれれば、人口減少をストップすることができる一つの材料になるかもしれない。
- ・高齢化で福祉、医療の人材についても現役世代が半分になると担い手はどうなるのか。地域においても、現役世代が半分の時代になると、区役や伝統行事、地域行事をどのようにしていくのか、など有識者会議の場で意見を出していただきたい。

(4) 今後のスケジュール（事務局）

- ・人口ビジョン及び総合戦略の策定は12月を目指したい。そのために対策会議、検討部会、作業部会で素案検討作業を進めていく。
- ・次回、人口ビジョンの素案を提案させていただく。また、5回目には総合戦略の基本的な方向性や施策検討を踏まえて素案を提案させていただき、推進本部である対策会議に提出する予定である。

意見交換

（会長）

- ・宇城市の現状あるいは将来こうあったら望ましいのではないかといったご意見を、第2回の具体的な施策が出る前に、賜りたいと思う。

（委員）

- ・世界遺産に登録された三角西港が観光産業として雇用の創出に繋がればと期待している。行政・市役所・学校・病院・公共交通機関・買い物する場所、こういう場所が揃うと、暮らしやすい。コンパクトシティといったまちづくりが大事と考えている。コンパクトな町の中で暮らしやすい町づくりをつくる必要があるのではと考える。

- ・人口減少はとても大きな問題だと思う。
人口減少をなんとかしようというのが今回の会議と思う。そういう意味で力になっていきたい。

- ・いかに地場で就職、定住させるかは大きな問題。それには、企業を増やす事が一番である。今伸びている自治体を分析し、宇城市で何ができるか、できないかというのを分析しながら宇城市の強みを作り上げていくのもひとつの方法と思う。

- ・生産拠点からの発注が多くないのが非常に心配。おそらく就労人口が減少している。就労人口が増えているのは東京周辺じゃないかと思われる。そういう意味で、地方で人口が減少して当然かなと感じている。
宇城市で仕事をしていかないといけないので、どうにかしないといけないという感じである。

- ・農業経営者の平均年齢は70才、10年後は半分以下になるということで、今若い方を一所懸命育てつつある。
一方、若い方々は外国人研修生等を6～8名雇っている農家もいる。5千万円～7千万円以上の収入がある方もいる。
直売所を2か所開設しているが、特に55歳以上の方の加入率が多い。宇城彩館の利用者が多い為、宇城地域に来て、生産できるような環境をつくりたいと思っている。

・宇城市の強みの1つは保育料が他の自治体に比べ安い。もう1つは小学生までの医療費助成も魅力ではないか。それに伴い、特に松橋地区は小児科率が非常に高い地域であるが、こういう魅力が特段伝わっていないのが現状。まずホームページ等で、魅力のある点、住みやすいところのアピールの仕方を考えていくようお願いしたい。

子育て世代の流入率が高い場合は、そこをもっと増やす施策の在り方もとれるのではないだろうか。

宇城市全体の産業についてはブランドが弱いのかなと思う。例えば宇城ブランドをつくり、何か名前をカッコいいものをつけるとか、アピールの仕方も考えて行くべきかと思う。

・働く人の確保が一番大切になっており、松橋高校、小川工業高校の生徒達としっかり連携をとっている。若い力が欲しいところだが、少子化で若い人が少なくなる中、高齢者も大切に働いていただかないといけないなと思っている。

三角西港が世界遺産に登録されたのもっとPRが必要ではないか。みすみ浪漫クルーズは、いいアイデアと思う。宇城の特性をもっとPRしながらやっていく必要があると思う。

・三角西港が世界遺産になったその年に戦略をつくる事は宇城市にとってすごいチャンス、強みになると思う。観光客が来て、経済的にまわっていくと色々な事が出来ていくと思う。来年天草が世界遺産登録を目指しているが、天草に行くには宇城市か宇土市を絶対通らなくてはならないので、視点を広げて、広域的な連携、他自治体と一緒にやり結果的にお互い効果の高い施策というのが考えられるのでは。広域的な視点も入れていただけたらと思う。

・今非常に求人状況がよい。

ただし、宇城管内から出された求人の充足率は県下で最低。求職は多いのに充足率が低いというのは結局地元の企業に就職していないということ。

魅力ある地場の企業、労働条件、福利厚生の充実、あるいは賃金が高くなったり働きやすい環境などは企業単独の努力だけではなかなか難しいというのがある。国も助成金を支給して経済的な部分は支援しているが、自治体にもそういうものができれば地元の企業も働きやすいような環境づくりが出来るのではないか。

・一番感じているのは、空き家が増えているということ。また、気になっているのが、松橋駅通り商店街。シャッターが下りてしまって、開いている店が数件しかない。開いている店も後継者がいなくて将来的には閉めなくてはいけないところがほとんど。その付近をある程度活性化していけないかということも検討していただきたい。

・三角西港が世界遺産になったことで、今年のみなと祭りはすごく盛り上がった。三角の人の気持ちが違ったように思う。

合併して10年経つが、その地区のことだけよければいいといった風潮が多いので、それを

どうにかできないかというのがこれからの課題と思っている。

- ・人口は減っているが高齢者は非常に多くなっている。いかに健康で、生きがいを持つかが今後の課題である。

これからは、健康と生きがいづくり、仲間づくりで明るい長寿の社会づくりに頑張りたい。

- ・宇城市は子育てをする上で実に育て易いし、生徒自身も穏やか。子育てすることはマイナスではないと思うが世の中の流れは、子育ては実に大変だ、PTA の活動も大変だということばかりが流布していように思う。

宇城市で子育てするのは実に楽しいということを PR することも政策の助けになるのではないかと思う。

西港が世界遺産になったが、このままでは一度訪れておしまいということにならないか危惧している。魅力ある政策でリピーター率を是非上げていただきたい。

- ・安心して働ける職場があるというのが基本。宇城管内で働きやすい環境、職場があれば若い人はよそに行かないだろうと思う。今後も働く立場からの意見が反映できたらよいと思っている。

- ・松橋町に限っては住宅地としての需要・人気というのは間違いなく高いと感じる。なぜかというとインターチェンジや駅が近くアクセスが良いということ。住宅地としてはまだまだ需要があるのではないか。

八代に比べて農業のブランド力、全国に知ってもらおうというのが若干弱い。三角西港の話はまたとない地方創生の起爆剤だと思う。これをいかに整備していけるのかということがポイントだと考えている。

- ・前任地の薩摩川内市にいた時に市の立地企業委員会に参加して感じたことは、補助制度が充実していた。最終的には誘致できる・できない、その後に企業が活性化していくには色々問題があると思うが、そういった部分も見直していく必要があるのではないかと思う。

- ・地元の子どもは地元で育てるという方針で、ぜひ地元の高校に進学を、とお願いしているところである。卒業する時も地元就職・地元進学の志向が強いので、地元から通い仕事をするという指導を考えている。

4月に活性化委員会を立ち上げて、地元の色々な方に会議に参加いただいている。生徒たちが一人でも多く入学して、地元に着くというような流れを作っていきたいと考えている。各界の皆さまと連携しながら宇城市を盛り上げていきたいと考えている。

- ・本校では、毎年200人の中で約8割が就職している。多い時で5割、少なくとも4割がなんとか県内に残る。県内の工業高校でいうと、おそらく2番目か3番目になると思われる。

県内の工業高校に求人がくるのは関東、関西、中京地区の大手企業ばかり。なぜかというところには優秀な人材が多いという定着観念があるから。

宇城市に1人でも多く若者を残していくと考えた時に、地元企業の力を強くすることが必要。今回の会議についてはこういった形で子ども達が進路を決定してきたのかを話していきたい。

・今後、宇城市が発展していくための人材の育成・後継者として宇城に残ってもらう、これが大きな課題だと思う。

いかに観光資源で経済効果を出すのか。そのためには魅力あるものを作り出す。三角には泊まる所がないので上天草・天草に行って帰られる。肝心かなめな経済効果としてなかなかお金を落としてもらえないという部分がある。今から早急に対策を練りながら、滞在型の観光をぜひ行ってもらいたい。

三角西港は世界から観光に来ていただけたらと思う。受け入れる側として観光物産協会では韓国語・中国語・英語の勉強会を計画している。

(会長)

・労働支援に関して県の労働審議会の委員をしており、人吉・球磨や天草で計画等の作成に関わってきた。

人吉・球磨地域や天草地域に比べると宇城市はまだ地の利がある。この地の利をいかにして活かすかということ。

地域観光で行くのであれば、今余力があるうちにそれやる必要あるのかと言われる位のことをやらないと、おそらく10年後20年後はかなり疲弊した自治体がいっぱい出てくると思う。

次世代を担う学校の先生、地元情報を多く知っている金融機関の方、地域内で実際活動をされている各種団体にお集まりいただいている。

次回の会議でおおまかな素案が出てくると思う。それを皆さまの視点で評価いただき年内の作成に向けて取り組んでいただきたい。